

辻 千春 (Chiharu TSUJI)

学位：博士（学術）

略歴：名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻修士課程修了

名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻博士後期課程単位取得満期退学

専門分野：東アジアの表象文化

研究課題：表象文化、植民地文化、異文化接触、中国語教育

【著書】

〈単著・教科書〉

- ・(入門初級中国語テキスト)『場面で学ぶおもてなし中国語』(あるむ、2021年3月)
- ・上記の補助教材『HSK1級単語攻略150』『HSK2級単語攻略150』(あるむ、2021年3月)
- ・『空白の美術史 — 植民地下「朝鮮」で見る創作版画』(中日新聞社、2020年2月)
- ・『戦争と年画 — 「十五年戦争」期の日中両国の視覚的プロパガンダ —』(粹出版社、2000年1月)

〈単著・学術論文〉

- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (6) — 朝鮮人美術家による日本の創作版画の修得とその展開について —」(『名古屋大学博物館報告』No. 33、2018年3月)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (5) — 釜山における清永完治と日本人の趣味家ネットワークによる創作版画誌『朱美』の刊行について —」(『名古屋大学博物館報告』No. 32、2017年3月)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (4) — 仁川における佐藤米次郎の創作版画活動と時局下の蔵書票展の開催について —」(『名古屋大学博物館報告』No. 32、2017年3月)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (3) — 京城における『朝鮮創作版画会』解散後の展開と『日本版画』の流入 —」(『名古屋大学博物館報告』No. 31、2016年3月)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 (2) — 京城における日本人の活動と『朝鮮創作版画会』の顛末」(『名古屋大学博物館報告』No. 31、2016年3月)
- ・「植民地期朝鮮における創作版画の展開 — 『朝鮮創作版画会』の活動を中心に —」(『名古屋大学博物館報告』No. 30、2015年3月)
- ・「日中両国の報道版画 — 19世紀に現れた錦絵と年画にみる日清戦争の描き方を中心に —」(『名古屋大学博物館報告』No. 27、2011年12月)
- ・「日本統治期の台湾における蔵書票の展開」(中京女子大学アジア文化研究所『アジア文化研究所論集』第7号、2006年3月)

【その他】

〈研究発表〉

- ・『中国語ポートフォリオ』+カリキュラム+CC ラウンジ (Chinese Communication Lounge) — 愛知文教大学中国語教育改革プロジェクト：中国語学修意欲の維持・継続と中国語運用能力養成のための‘能動的教育’の実践例として」(第16回中国語教育学会ポスター発表、於：早稲田大学、2018年6月3日)
- ・「飾り絵に耳を澄ませば！？— 中国年画でたどる庶民の願い —」(名古屋大学博物館第37回企画展講演会講師 2018年2月17日)
- ・「絵は口ほどにモノを言う！？— 中国年画でたどる政治 —」(名古屋大学博物館第37回企画展講演会講師、2018年3月10日)
- ・「中国の正月の飾り絵を見る・聞く？」(愛知文教大学公開講座第8回講師、2017年1月)
- ・「空白の美術史、植地期朝鮮における創作版画の展開についての研究」について」(第21回版画史研究会特別講演会講師、於：東京古書会館、2016年11月)

〈社会活動〉

- ・愛知県小牧警察署国際化問題アドバイザー (2016年12月～)
- ・名古屋大学博物館第37回企画展「春を迎える — 年画に込められた願いと意図」の展示協力及び指導 (展示期間：2018年2月6日～5月12日)
- ・文部科学省 SPH 事業「コミュニケーション能力向上のための中国語会話指導法の研究委託による名古屋市立商業高等学校における中国語会話指導 (2016年5月～2017年2月)

【研究資金獲得状況】

- ・2020年度公益財団法人鹿島美術財団「美術に関する出版助成」受領 (対象書籍『空白の美術史—植民地下「朝鮮」で見る創作版画』中日新聞社刊)
- ・2015 – 2017 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「空白の美術史、植地期朝鮮における創作版画の展開についての研究」(課題番号 15K02181、研究代表者)